

# 抗がん剤プロトコール 届け票

申請日	平成 年 月 日 <u>20. 4. 16</u>		
申請者	所属科: 外科	医師名: 石田秀之	印
抗がん剤プロトコール内容			
略名	DCF		
適応臓器名	進行・再発食道癌		
薬剤名	ドセタキセル水和物注射剤 (DOC/TXT) (商品名: タキソテール注) シスプラチン製剤 (CDDP) (商品名: ランダ注) フルオロウラシル注射液 (商品名: 5-FU 注)		
注意点	各薬剤の注意点を遵守すること。		
用法・用量・投与スケジュール			
4週を1コースとして、できれば2コース施行する。			
ドセタキセル	DOC/TXT	60 mg/m <sup>2</sup>	day 1 点滴静注
シスプラチン	CDDP	70 mg/m <sup>2</sup>	day 1 点滴静注
フルオロウラシル	5-FU	600 mg/m <sup>2</sup>	day 1-5 24 時間持続静注
<p>1) 5-FU として1回 600 mg/m<sup>2</sup>(体表面積)を 24 時間かけて1日目から5日目に持続点滴静注する。</p> <p>2) 前投薬: 5-HT<sub>3</sub> 受容体拮抗型制吐剤 + デカドロン 8-20mg</p> <p>3) ドセタキセルとして1回 60 mg/m<sup>2</sup>(体表面積)を1-2時間かけて点滴静注する。</p> <p>4) シスプラチンとして1回 70 mg/m<sup>2</sup>(体表面積)を2時間かけて点滴静注する。</p> <p>5) 水分負荷: CDDP 投与前 1000-2000 ml の輸液を4時間以上かけて投与する。 CDDP 投与时 500-1000 ml の輸液を2時間以上かけて投与する。 CDDP 投与終了後 1000-2000 ml の輸液を4時間以上かけて投与する。</p> <p>6) CDDP 投与中は、尿量確保に注意し、必要に応じてマンニトール及びフロセミド等の利尿剤を投与すること。</p>			
Evidence	NCCN ガイドライン。 臨床試験 ① 遠隔転移を伴う食道癌に対するドセタキセル+シスプラチン+5-FU 併用療法の第II相試験 (OGSG 0403)。		
備考			
<u>20. 4. 21</u>			
がん化学療法委員会承認日:			